八洲文藻卷第三十四

内閣文庫
和書
類 一八二八三
號
冊 八八
函 二五四
架 八

内閣文庫
番號 和 18283
冊數 88 (35)
函號 204 259

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

浅草文庫

八洲文藻巻第三十四

權中納言從三位源朝臣齊昭編集

宗長手記下

内閣文庫

帝国図書館

藤宗長

十月二十三日四日京都再発ありしかども
紙ものえん右往左往の辨耳目もなく
なりゆくとおもえし江州矢島小林等彰炳
恩顧院主世八月下向やうて所下向ありて

とかくとする程又此はたをいてさて延引今
月十日下京又出くあとに大津まてとゝかの道
えれ物をつゝして やうて ゐとゝ はいてふ
をぬまとあとに ゐとゝ なとゝ 彩まぬ
あ又ねとも 神とゝ ゐとゝ
御詠一首ゝ
若松の池ゝる宿白波はたゝふとゝ人ゝ通の
人あまゝして二井寺勝蔵坊山科をゝ山まて

むゝとて人おかくして若元侍引之ゝ
のゝしゝふり京よりはゝ人とゝ神ゝひは
森とゝくゝ関屋の新宿之ゝ新ゝ
時雨とゝかゝして
ゝ桜のうゝゝ九屋の多ゝゝ
立ゝゝゝ あゝ坂の山
時雨と人ゝとゝまぬやゝゝや
大津ゝ田宗桂一宿京ゝはゝ小勝蔵尺八

出て
浦より舟みく坂本永の中勝院堅ふれ道
数盃時雨し風の名残あるてつるもや
酒みやいつるとも芋くて醉ふ比殿
辻の法泉寺業能の随月新又吉今酒
あるてを勝蔵と名乗道し一夜休息この
新法くりやうとはくさ道茶湯
多まて数寄さく又あくひもふ手数者

ありてあつさつる出て海之やれ
ゐ之ふ山法くさ横川の峯とふもふ
謝諸

打志道やとく紅の胡ふ者
月とてもあしもゐの大者

一茶く雅月の面と農白と有堂仁月と花く
といつ松ゐやふ別ふれと月ふつ者
ふやつ計と

月ふる雪とまれ行の袖にかゝる
月をもまこゝろにとめ
矢橋へとゝく末の淀舟々大津入てあり
と雪ふるさゝなみを打ゝ小松寺相看つゝ
はる妙勝寺宿唐崎とを過てもふかの郡の
はるゝ雪をもとゝ
唐ゝ耳やゆゝうぬ雪浪の
初の風はつてたゝ舟は

世里人の稲の蔵まちつをとこゝ馬牛蔵々
ゝとはしむ米とゝ面めのゝもい孫
つゝこゝゝゝたゝひ面ゝ夢見て耳ふ
ゝゝゝゝふこゝふゝ起
耳やゝゝゝゝゝ今松里の又ゝ
稲つゝゝゝふ部夢ゝなゝ
大堂會はゝ田のいゝと行ゝも世里の迫ゝ
ゝゝゝゝやゝ

旅宿に小雨降りそそぎあしし嵐吹きたるに
船出しもおぼえい立ちてうちもしまと
山とおくして林まれ雪田坂年より
ものとめて年のうちなる芋とうなりし
食能のうまくおらうとうるると自然して
指ちやしまに里の冬ちう
今とうるつと梅も咲
あるる人来ぶいて芳句有

明ちう雪やいかく中川胡こう
今日よりいるひとうく侍るへし
中ゝ古侍る言知人二三里ばかりあるつを
て岸十ばうれこう迄里ハ山遠くして岸菊
貴買もたるもとうに侍る那田の高橋志こ
文の加ゝしつ
世に星月侍こうしらく志ちの
志文の岸辺く横ゝて侍

あるお坊火をともす火鉢に炭をもり
つて紙をもて火はけをこしらへて
あるふるまひてそのぬしもそ
もの〻ことをかたのうりけるや
杉江の宰度とゝ世あるうちうちに古歌人等連
格一系又色〻此人に清家門に清水つきて
又の作者の年後にてあるべし二つ
歳度の後に坪田平右衛門格一系の由稱とゝ

十一月廿一日小枝寺一付和尚年忘嘯より雪ふりて
庭の杉ものしもをとゝ雪の
枝をたゝきもあつさ

院主

十ゝ〻ゝの花ともゝてをふるる
いく白雪の庭はわけ枝
ゝゝ酒とて小雞もあ一おくりし院主へ例の
謝儲

[illegible]

院主

不消安排一口無雨舌

玄周とて南部の人出羽ゟ京参河ゟ来人

有く遠江駿河まつたくてこの二十二百

小林寺乃来二三ヶ月ハ掌乃社濱辺尾州小

寺護代坂井掃部ゟ書信遠百足南泥来笠

二度切ゟ廿三日三井寺勝院坊日くまて

訪来終夜天八玄周あり[illegible]

廿四日序寺小林寺信達一夫人若尼傍月酒

あまてやうく[illegible]

つくせあてのそ[illegible]

[illegible]八月[illegible]

[illegible]月の有明[illegible]

我ら病気なる事を歎き
ちかあしハ今日一杯ふとや行ちと残多
し
廿六日京へ人の右衛門佐いてふ二井ち勝蔵へ
左右おかし右へ書ちと申ち
一枚をちやもらひ出ちかたん
右流多くつとく自然の人ふるへし彼寺の
あるさ頼多ち山はたしのようもあるへし

ふのまちとちはあハ国とちまて
はあ婚夏酒やや絶ひとはたん
ちちちやちちち多ちとくちむ暁ち
雑きこの光はちわちの方へちと
はちち方ちて方ちおとはふ
七十九の易余期極月一日残寒と廿日ち限
はちちと
我しかちとハ生ちハ行ちち我ち道や

[illegible]ことのみなら令ふり者
小林寺納所へ[illegible]あり
[illegible]ひねもすあり酒を
[illegible]入れや
方外新道開此一面年紀光の太守畠山[illegible]助
主國手後河あり[illegible]や在所[illegible]て芳
書江列[illegible]小林寺後河文の中にあり新[illegible]
[illegible]紙の[illegible]堀[illegible]

[illegible]の書[illegible]の
京へ[illegible]月村後風あり[illegible]おくり
年の[illegible]雲中[illegible]
首座[illegible]
白山の[illegible]たく京なり
一体[illegible]像太刀の尊像[illegible]
[illegible]のあり[illegible]おく太刀の
[illegible]

[illegible]

臘月廿日板橋宿中柏支禪つ家雅家紙家

あつて駿河府下の方このおくり中國の

境とおもはれたる山なりて清之

関とハ法隆せしとの伝地なり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

宿中家作りて山あり[illegible]

本[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一[illegible]

臘八

今[illegible]の味

[illegible]

院主

知音識後更誰知

毎相[illegible]ぬあつきも

[illegible]

明方[illegible]暁

旅宿[illegible]おろし雪風

吹入[illegible]

[illegible]

中仙道旅宿と称仮東菊雑事ホトトギス

知[illegible]して妙意の

伺達[illegible]

東菊新[illegible]

毎日松竹と酒のよしく

此旅宿ハ志賀直哉山田美妙の海[illegible]

多とあまおく舟とも棹ととまあく数
きしに伊吹おろしの孤おろ簑笠
なみもなき浦沈もる鮮殺生のあさ
又うまとまわさ夜さおもく小おふし
やうもや晴おのおろ月ひ形
む琴く水多とものの羽音いは形月
社ふむやうくふおりぬやとき弟八
くおく網もやるうらうされ生

く琴あさまいもあ人たる耳
とあく枕うくうるあく
衰なのの琴ふもるあ
あきおさわとふの照
波のうくあらねまるあ鴨の
網のつふてあ明るふ
此下白多類あり彼者有多語多奴ふ杨
一多なあやあふ衰あ方し川

河井又五郎使者相ハ代炭十ヶ雪中書状
ニ付〻親父加藤別連歌として合點吊ひ
事書状門ニ〻きうあり添きあくし
去年ひ夏ヶ屋ヶ彼宿ニ連歌今日わたれ
ひし〻迫坂ヶ関ニより吊下人上下ヶ
つ〻〻費白ニ事ニ迄ニ関のうきこ書
とうこ入〻く
雪ヶ人ヶ見えあ〻ひ〻ヶ屋ヶ

関屋ヶ祝言こ迄ニ一ヶ
十一月晦日發河より弥太郎上發遠江事
先〻大雲寺金二ヶ 泰以時代 左京下略 城東ひ書状
又一ヶ 房州 ニ迄ハ京へとて出あきたるひ
〻遠ひひあとうひひ不きふ
家ヶ〻ひ重ヶ〻ひうぬ
〻てひきいるもしくり
伊勢亀山開戸ヶ腕月十七日矢弦の旅宿尋

來入候事中年は度々旅日ハはしまる
ものゝぬよりみもあしくまけとてえこゝ
廿月のなしめ究脚書状さへのあしまし唯
尋常は云ふにけりこともやと云へともかく
雲ありさへあるこそのさてもかし別旅宿は
古あ食飯なとおくりまいらせ候いく
給應山さそれありつる雪のうち
いかゞ誠あるらん云ふるらん

やうてかへし
まかふありうけかね雪の内も
つきてきかしけの道をとめけ
故ハ入て来條雪よりけわうしこのとえ
よも文妙逸さけなる云へ田楽とそう婢の
盃たひかくさ云ふりて旅宿ハかくしそ逗留五荷
代五百足炭六ヶ蜜柑二籠千把色々旅宿へゆく
こゝや逗留五日卅円種々思志ともり日数られつも

[illegible]を来入[illegible]中連歌八句

[illegible]

雪中山と[illegible]て、寄来入の[illegible]

[illegible]

廿二日掛城飛弾の陣へとて[illegible]城今朝いたり

[illegible]

[illegible]一町[illegible]家[illegible]人[illegible]

[illegible]のまゝとはるとて、[illegible]年の

[illegible]

[illegible]

去八月[illegible]

年[illegible]世[illegible]と云[illegible]重[illegible]世[illegible]

[illegible]

白杵の[illegible]

いつてたし[illegible]

[illegible]丹波の軍[illegible]

元亀類討死の[illegible]父若狭[illegible]年河原村

城より一人づゝ名代の死のきこえあるゝ
ゆゑ父母兄弟みな人なり歎こと
なとゝのべたて道遠院殿へ申上る事ゆゑ
なれ表にも役もこゝろもとなく
けり
そもそも此ごろ世間はいかゝわや
ゝぬこの中は疫病死もする
とゝて父母名代のこゝろあるべし

廿五日長谷寺へ大きうつと宮く
病人うちへ入り夏の今松もてゆくと
拾ひ〳〵やう悪を出る
京もゝ役おとゝ年の数残をつゝて
元食の最初の事成
おもひやつゝく
ものゝ数八十の雑事残
やくとゝいとおとゝやつゝ

立春のあくる廿六日易の勘文七十九の事
已巳
年はかゝ八十又息と延て居る
よわく文乃年もくるあり
於年あたた
久しかハいきていつまて生延の
いきもの
天明和尚法歳八十年法華
死ぬとも生ていつまてあらうも
分ないもの
おもひ出ハ多
宗梅法師業未として系五袋程村中物貞知
観音寺より来一弦宮本入道主観しのね茶
のあめもとむる
君の為法ぬ出て主の松ぬ
我紙衣ぬ

[illegible]

[illegible]

宗牧伊勢にて[illegible]

[illegible]

[illegible]

正月[illegible]

大[illegible]旅のやとりもとりぬ

都の[illegible]

除夜[illegible]

[illegible]

[illegible]宗長七十九おのれの[illegible]人[illegible]湯

[illegible]

[illegible]

[illegible]

已大永六年より迄て七年正月元日
梓弓やそちの春とちとせ今
人の衆と云さつかつてる
今日少林寺欣跡試筆元日祝と
勅さたのみ寺のうたは春々あり
世と人もちの智明みしか
南國寺年大雪の中部部いてをちち
云つうもしぬさと試筆々とうの
事々やそちと云うて貞初春は巻々やと
おかの御詠々ハあり
十四日 抑八旬春命
言語道断此一歩年まあとまもあさとまも
毎日の事は日記しおさはいはい
おとらさてもうしぬ元の波々筆ふを於
うふまくは事ふうる祝
陶とまや伯々いたとてて
眾さう百いはく寺於

打ゆくまゝ
根ハ結ぶ夏ハ冷ハの池
此所のあるじ元日まてとゝく竜と名を拾
つるを道遥院殿幸姫君書法孫これまて
うゝおさめしくあらんことをかく
ちかめ石の蘇の笠の唐
いつゝ此所にしるしあり
笠屋旅宿おかしめやらふ所しけ

為法又法遥
今をかぎりの命ハ結ぶ
根をの蘇ハ結ぶ
宗牧法花句中結旅宿又下て服部こゝろ
結ぶ結ぶ百韻のあれ
孫法花句の孫宝
孫公所さらしくて結ぶ百韻を成ふ
梅のとをあくぬ香や句ふ
公所ゆゝ深て香をとて梅ゝ香と

今かゝる人あるとは夢にも思はざりし

とゝおかるゝ

少林寺宗精蔵主俄和泉堺へ下向離別の詩

あるを

二四句類として歌二首

両地江山今白頭

他年ふるさとの月

君をまつとて

半窓月落一燈幽

わるるまゝとゝまるまゝとゝまる

月は有明のつれなくも

ひぬ灯火

此五日六日ばかり日むかの文来りしを

とゝいひのつかへいるもとめやるうらぶる

ゝ

をひてれを別とゝめもて

俄なる地の事や悲しき

少林寺道里地獄院詩とおくる又云曰

茅檐雖野有祇待　晴好雨奇江上山

浪人とは山谷の辰巳雨ふるし

去しも君と知人もなくて

観音寺より平井右兵衛殿寺伝橋二箇所荒

巻原中仁古伝正月日拙吟のあるとも

旧冬より有度又

あるとみるとと思ふの立とうる

江別ハ南北とりしかや

矢作ふ場兵庫助真行

梅やあるとみるとうくの辰巳

二井寺よりとて有度又

明きやとうるさとて辰巳うる

馬渕宮門少輔殿うもてもひとひとるもても

中通ふ事も寺　越色寺伝福田八郎信宗親

久知寺より　信達あるる門徒ものや領中

天神宮の白梅殺生禁断有之候
廿五日の日より段々俄の事也稀に此度
なり

梅はなほ日数の経る波のうへ
宗祇月忌初廿九日曉雨降いく
さらの雪やなほ冬ながらの梅
松の事なほ別紙

俳諧の雪曉より少梅雪は松竹ふるひ
下野の雪ふる月明の夜
又夏まで
ふるとなれ行て夏や来る
新まつの
ひきて雑二月ちつをいひあらし
夏や初まつ
生死の時こそ

いつかしてくるまをたとり
かりかハちをぬ国をかうる
青柳山をてらいてあハ坂や
国ぶりをふ八十をぬ
福田八郎信家と申て
一筆ぶ源うるたひ之ひ出く
南無阿弥陀仏と唱へ給れ
通し

ふれ世と忘れうるとひ出ハ
いかを通こうされの南無阿弥陀仏
和年大炊助去年秋九月と申し四妻をおくれ
て愁傷ぶ〳〵すれとおのふるをハえ
ぬ文をそとて此去申うる
すく中ぶつ仏
去年ぶ爰と申ひをあ夜さしらの
ちうちちく去ぶ手枕

[illegible]やくといとう
京へ回合つと人はらを仮朋
[illegible]つてはいふ舟は
いかと名つけ[illegible]登せつ
[illegible]の池助して雑事[illegible]
[illegible]事かくまた
[illegible]弁といふ人雑事[illegible]
[illegible]ひぬ[illegible]

又京都の事[illegible]て
[illegible]ハさけと[illegible]
[illegible]ハ柳一[illegible]
四条河東京都右往[illegible]
[illegible]大永七二月十二日十二日七条[illegible]の
合戦武田伊豆守代[illegible]杉胄の勝利とうし
[illegible]敵[illegible]
山家樵夫[illegible]

陸奥国内所々に数万の軍兵雲霞の
ごとくに入洛をなしたれども法勝
寺一日一夜のうち陸奥国悉く滅亡す
寛仁年中信濃国に敵とれり京中三分二
大城と申す東西十町其内大内左京方迄
沙敵ども洛外に陸奥国悉く
されば国々法寺もちろん下はて
く静謐又永正年中三好筑前守といふもの

阿波より摂州に出向ひ城の
郭を居道永江別当と申す者
五月に入洛筑前守又一類幷あまた討死
して生捕又ちりぬ元異なりして四条丹波
古浪人号堺紀しして剣張城西京桂川とて
七条迄迫孔入て六条大宮内まで迫
沙動在道永寺南大門一日一夜桂川左右
共合戦法動在して法敵相とりを射矢とて

めもしこうりの為とおもふ事の様なれども
やうやうして十四日の夕坂本へ御下向志賀
本願山田矢橋寺山二二日長光寺より御帰
宅ゝ道中ゝ能地江下番信長ゝ
くゝ信長の御ゝ長光寺名誉自性と
此時と為ゝ御ゝ書の日の
ゝ御ゝ宮の名誉
東海道小路西国中国の名誉の名誉

昔本願の御ゝ八幡宮ゝ御ゝ
長光寺ゝ御ゝ書ゝ
ゝ
三月四日矢島と為して甲賀水口ゝ
八十町ゝ御ゝ青山泰宮の御ゝ
ゝ御ゝ
おゝ門ゝ開ゝ
水口の家やゝ

やまとよりとてもこゝにあり

伯洲長坂今八少雲軒の三雲軒むかしとゝ

同居者家人数多くして連歌一順八句

やまかぜにしら雲はらふ田面哉

甲賀名といふ所あり

浅志状

とゝ殿人の様と爲たまふ

こしも君のゝ源氏

返し

数あまたの一文字のこゝ

ゝ文ゝゝ

又江州河井又五郎又一西忌の為ゝく名号

を書白

おもかげ

支流ちゝ石井口三郎左衛門伊勢高山まで

おくり来ゝ帰洛の事状を書白

墨ばかりにてうしのやうなる小
柳如なる墨のばかりなる物
細字ばかりの五六十丁底眼とおぼうつと
又文字のうらにあるのあとまでもとおく
筆うれて畫ばかりひる
墨筆もばかりにて底を矢入物
ばかりなる書ばかりあるなり
三月七日於庵山と書て亀山道四十四日連歌

おもばかりばかりさうまばかり小
世有領ありて歌一續

初春霞　宗祇

かすみしめりいれるるの曙と
こひもわかぬ日方の出る

竹雪　宗長

雪とばかいさ村竹をうゝ也
吹とうもぬしうる花ばかり

浦眺堂

[illegible]

寄神祝

[illegible]

[illegible]

人[illegible]奇特[illegible]の院主

九十八[illegible]同[illegible]歯[illegible]生出たる

[illegible]人[illegible]仏[illegible]

[illegible]山の左右[illegible]盛[illegible]書[illegible]

[illegible]山源[illegible]河[illegible]神戸[illegible]

長つゞ宿[illegible]一日有て翌日連歌[illegible]

[illegible]

[illegible]やこ[illegible]やとの夜

[illegible]八方拍[illegible]の後[illegible]夜山[illegible]の

[illegible]

はくちはけこうの[illegible]

ふかもとなる春のおもかをやけりくいて

又世有頃あるとて一續

海上震

舟人をおくるいせの海

うらいくらもあさ霧の

不逢哀

[illegible]

神戸と云く高尾寺のうしろ一里ばかり長つら

うらおくる若元おけ川奥にて白く

し酒の中々

ふるくふるの元をこそ知きゝ

元し沒ぬうひれうる

又元元乃中つとく

[illegible]
[illegible]
寺門院を不重義多
今朝八時過ぎ[illegible]
此村家ちらし寄かゝる[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
あさけ日永とたゞして桑名小運一里ばかり

迎ひとして迎ひ若元来く日暮雲運暮日
連歌無沙
[illegible]
廿六日尾州津島河のかと三里ばかり桑名元
宮若舟ゆく両度河水とさし[illegible]
の中津湾より又むかひの日桑名
まおくり舟をたゝし川よりふうの[illegible]
[illegible]

江尻やうて一わ無り

ちゐとそうよきを寄きいたく老もり

若元枕筆を添うけたくくそこを行し

廿七日尾州清須坂井坂津を旅宿おくこゝろ

いひつをきを又翌日無り

そういく岩うさつをさかりの夜

服亭を村雀

水ゐうをそうを屋の事ゆき

徽四丹波を無り

ちゐようたゝあるたちもあるひ

三月長をうゝ今もかをこれ寄をあり

しうをも今月一日はうを立ぬ川を清者を人

今やとおうをはをうをつをさの元屋たく

明くて樊四を坂津をうをおくをのやう

ゆをて女人同を遠中ゆをを酒あをし

一無ゆを宮社宿坊無りの事元屋をゆ

兼日より雲霧はなはだしく摂津
国にはなはだしきなれば幾日摂津さま
有つるを中つ頃数度迎中つるに
かとて紙しるしたる花の遅さくら
俄かに思案入るゆゑ紙向殿重服ゆゑとも
別ゆゑを紙に
かけとゝ者中つるやくれぬふ
義氣おのくあるとて其義あるとなり

宮とたらて又摂津のくに海まてくふ
ちるとおのくれ殘れおくこと宮と
明海の名寺とゝ云あるゝ人おのく詣ちと
らて立ちかゝ寺に年を頼者のかくれて
立とゝもせはら祈願ゆゑあれ殘さ
かり等のむりを此年をかくるまて
立とゝもせはらかくるまて
ちるゆゑ

参河刈屋水野和泉守領内日逗留後一切無之
[illegible]
みやこ[illegible]て五百疋[illegible]千疋
[illegible]下の[illegible]して此年来百疋
[illegible]
安城一揆松平信定興一尾別[illegible]
[illegible]妙大寺むし
[illegible]瑞[illegible]系図松平[illegible]て東海道の
名残いにしへ[illegible]今は[illegible]と
[illegible]松平信忠三郎の[illegible]安城[illegible]源流として松平
大炊助忠定宿所去年[illegible]一日逗留[illegible]
一日逗留無之
[illegible]
西の[illegible]三郎宿所[illegible]
[illegible]井[illegible]
一日逗留又無之
牧野年三郎安城

卯月廿六日ゟ五月朔日ゟふの中ゟ武
むさしとおもひ出ぬるゝ世ゝふハ五月
廿ゝ日ハ卯月の末ゝ中ゟ風
雨ゝ又一日あるて國のはひの城物津山ゟ
いりぬ世物津山の波ゝふハ尾張三河信濃
の堺やとゝ思ハ鹿屋ゝ族あるて番所
日本左衛門城ゝ東西小濱名の海めくり
て山のあひゝきゝ入城いれゝ水の

卯月廿六日ゟ五月朔日ゟふの中ゟ武
世城ゝ高ゝ山ゝ高ゝとゝゝて高ゝ山ゝ
のゝきゝゝゝ白妙の波ゝて極ゝ
あゝゝ高山ゝゝとゝゝて高ゝ城
卯月廿六日波ゝくゝ也ゝ奥津ゝ
今橋牧野田之宿一日奥ゝゝハ廿日江戸
年ゝ歳ゝ芳野の高ゝ奥ゝあるゝ
むゝゝおゝゝて元庵とゝゝゝぬゝゝ

こく城のさしとめくる大小舟岩よつふ
うせんむうしい城江の城小八濱石城刑部城
いれ佐山細江舟はせ進自里ふり西一方
山はさきまて敵のおもひかけること有まし
此つゝ年と長池九郎左衛門尉親秋永書信を
ゑ本城の岸谷の底まて里ふりつゝを
あ[illegible]とゝむ[illegible]さ中ふりなし三ヶ國の
敵のはたらひ是迄の大敵夜書の勢を寸脈

さこゝを逗留連歌興行有ゆゑ家
徒息数日ゝ一順八九人
ふりやこれゝさ[illegible]ゝの海　宗長
商城の京家まて[illegible]ゝ[illegible]
ゑさはといゝ[illegible]君ゝ[illegible]
ゝ本歌ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ陳國のゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
歌夏の海とハ書[illegible]ゝ[illegible]

とゝ此海のとゝしき波とかけ物をと
中納言殿親筆
きみ川のこなたに殘をうきみる
本歌のとゝをもあるをもあるてこゝ
川原を一おとこ法きに國府毛とかり
とゝ六郎殿つゝ入勢川二日逗留法師の
中山途中杉原伊賀守上洛ゝゝとの
勢を引て立わかれぬとゝ法師ゝ一宿
桑名より勢川の旅宿へ法師
夏なれやさゝ中山ふりて
あひ法ゝとゝ立別れ法師
稚兒をとゝめ
おくりかの方へ
歌度ゝ又やゝこゝ毛とゝ
ゝゝゝやとゝ法師さゝの中山
大井河とかゝり夏枝とゝ宇津山九ゝ

共同居なりしが此度おのれ去年七十九
はかりとて門出せし又我ならぬ此の
細道に分入りさまよいいたりもあるべしいたり
いぬる長生の家同果いるるなるべし
之なきと和おそれより外に本拝喬山
法事おおぬ房別房別又あるを出立
もの長い家いそぎたるもの
はかりなる我なるあるをこのうえ

死おくれぬ先いるなきを
客人清之助同一見として彼者文うさてを
面あるうさてもとも思ふあれ奥津
長九郎うしへ面しうさてを
いさ長い家長をとうを急てを
家長のもやつ通れはかり
京人なるもとうはり清之助
先しく彼を知ふとを礼

三井寺

かゝる山ハ本には鐘と志りし　郭公

三河松平大炊助句商とて彦兵衛又二三人
一宿事上下道ゐるすとの事書状又つかはす
隣房毘沙門堂借用して帰りのおくりを
とて　あまりに又不弁なりし扇一本残りつたはし
はらひてぬ

ありくはふみつゝきせはは富士の旅の

紫やハ煙立らぬとふみ
さりしとをきこもたゆぬかくの
きかし　はた杉に紫色のこと

在城句商坊

喬山（氏親法名）一回忌六月廿三日彼門跡草中廿有五
文字と一文字はしくの句はよりおもしきて

獨吟百韻

かせハうかわとれりしこはあふさし

清書人々あつまりて頃常引ちらし
おのゝ〻意筆々まゝに
はらてゝ書ける水墨の
八十ばかりの翁向ふ
奥州岩城民部大輔四隆多年書状通用少て
殆こゝ所に有まゝ
白髪まて罷六度の枝動ばかり春風白川関
一見思ひ出る年夏ゝ彼彼ゝ就年ばか

六月上旬過ぬ色こゝ芳志通芳物又伝馬ゝ
せのゝ名ゝ書ばかり過ハ明ハ見ゝ
ゝ書おかゝて春風の文の行通の松ゝて
八十ゝ年ゝ
岩城の奥ばか中
迷老懐銚一筆ゝ
今川氏輝ゝて為
山眺堂

月いたらあらつてきみて別るゝは
入日なれども岩はたゝなこと

寄世静

夕風なれば笹の葉しの秋のこゑ
あらしとそうしたる出はなかぶ

於寺一回忌長国寺和尚有弓詩頌之日白
仏和也

一首東和平

猶留仁愛傷林鶯　花自紅々草自青
徒ハ作れるあるのし色音なく
うらのこゝろもたゝ悲しき

同一回中行つ仏文字の歌所詠をり
まとり

山家

まとをハ水なれるさ山の井は
あるあるかいさもあるいなる

つまつたもしかしてもたまつた
雲風雨の絶ぬ中ゝ
七夕又氏輝ゝ

名所七夕

四方はたゝ浦やあるはたゝ原の
あやぬ月をたゝ
鴛鴦

たゝ物又浪よりわのたゝの

家鴨の通はたゝの跡こそ
神祇

みたやゝ神の志め縄町もたゝ
今やまこと例なる神ゝ
七夕又変はいのちふたゝと為れて
祈ひらぬ頭又あぬ八十なり
たゝ多世もあひたその星
鄙語一名ゝ

おなじ日庭の萩をつまして人々やうとて
をとあらはれ咲るを見て天はれ川
萩うあきて濃うあさしこの
九月七月九日あしたおきはるを隣のい
とゝひをゝもとさるい腹の頻みゝ
うゝ歌うゝ むはなきて夕
まいるを旅はたらしよもやてゝ
ひくらしの神を嘉ゝ

おなじ日のくれを身てはうゝ作也
常屋一とゝは七月十四日朔の始を客殿以
うゝあるをつとゝ中ゝの比紙花を有て帰下
つまてゝ久あしゝをはてゝおくしの
冬又うは三分一ゝうゝ芝茅屋をとゝ
おとしの七月九日を帰はてめくりの垣
うゝをををとうゝはてゝ庭のふを浅茅
の中を埋石をゝ一つの川をを之ま

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

于蘭盆ニて十六日ゟ

[illegible]

[illegible]

又ゟ[illegible]

宇津山茶屋迄もとの水石[illegible]

[illegible]て[illegible]畑ゟ刈てまひさゝの稗

[illegible]

[illegible]ひさゝの[illegible]石まぜ山畑の

[illegible]和尚ぜ[illegible]の稗

[illegible]下ぜ[illegible]数家ぜ[illegible]

庵と結び庵又蓑竹のこ笠をつらうとて

さらひやれ家の山畑の紫蘇屋

庵の方へ旅ぬ花はあらつる

西行上人も雲のゝ遠山畑の秋されはあわれ

やゝたゝぬ旅屋しさらるゝ

宗祇年四七月廿九日

あさうちや花とゝ花のさふのゆめ

紫蘇むしひ為ゝ畑又庵ゝ

梅吟

庵は秋やとゝ山さらのゆめあり

又我屋又大夏あつさとう忘いろう旅結ひ

ゆゝとうゝて胡麻の白花又

まあ〳〵しゝ山ゝ道ゝ花うゝ

畑の葉とつゝて人又はゝ庵とて

つゝてこゝとゝ庵ゝ道胡麻

我山さしはさむ秋の霧あさ
庵の山水雨もらかされ石垣のこ
やうの雲ゆきまとふ
せきいる庵の山かはらくと
石垣のこう雨もさむかり
風やうく吹さしむるふりて雲の秋はあは
事とおもひ初のかさはさと歌て
天こう下あうとあるものあくもふ

はてやかりさの長月とそは
閑居といふ庵ともかもはめ巡礼往来のようりて京
田舎の事のこと雲と雲
度とはくもりとはくもりはの山
うはくもふかさとと雲れ
人の不見ぬ
雲あさはあもしふのはうふ
ふふれ雲ぬかあつ中さうれ

今川
範忠行歌相模守にいまして等身中々
に後三十二回忌品経二十八品の中に範忠の
歌ありしを相模守もとめられ
古人のことと
後のことあくぬ組の春くの
とはに系ことをもとめられて
山家は草庵みく数々
庶乃高やとふ山ちは夕あと

奥津宗徹彼みく庵の眺望と
志られはくとあらぬ宿の末ふ
おもく庭の水多と
霜ハきとしとはうはいふ
大永六年六月廿二日喬山汁地界光腳師
川原より山城勢刷恩寺七月廿九日ふ到
刑部あくしに行吊ひおはてぬとき宗長已
七十九余の歳の時眺元中て案

[illegible]の末和尚[illegible]
[illegible]世中[illegible]中院の
後式[illegible]て一七日[illegible]粥[illegible]
[illegible]薬湯又[illegible]
[illegible]中[illegible]
春江時成[illegible]文[illegible]て[illegible]八月より
道遠院殿奉願品経廿八品諸家の[illegible]
中調[illegible]京都の[illegible]延引して

[illegible]年二月十六日[illegible]
[illegible]二月四日[illegible]四月[illegible]
[illegible]中[illegible]殿[illegible]
[illegible]
又道遠院殿[illegible]古今集八九年[illegible]
[illegible]中[illegible]年[illegible]
持[illegible]又[illegible]
[illegible]

喬山へも九折抱多年下を絶え又相来早
長宝寺殿桂山別而家仕とハなくて只朝夕
多年の身ちかくこそ仕侍へ今ハ召遣も
御知仕まし 小川殿（義忠内室）当年と殊く御覚も仕
なんつゝむいろをやめされてまする仕し
時もさゆう見ことおふせ成進仕つ進ら時
右京亮泰以殊俄ふて継ぎ御ゐ喬山の紗か
御時ハ御眼中 紫野漸細御心の候見のこ

御志ふかく 廿ケ年ありて殊外被ら
いまた異地の為あやまち遣し 是ハ為遣く
も殊知ある へし 又ハ御用ものたらまる
成せ仕事もたのしく仕し 折以四月より
殊下国の餘以甲承り又之及申仕候事
もう御くもかたぬ御事のこまく志て
とし八歳程も仕ハ始見うくのとくうつり
たくたる御事見やうおもうた九入殊也仕

於忠志ゟ家内ゟ紙筆ニ而
七月初九日ゟ閑居ヘ引籠ルとて春江
中をしい
さもあらハあるとハ云ども日々耳ふ
ゆてもてもはなロとる
あるとも忠志の方ゟ社成ル事ハ喬山
を十ヶ年先ゟ法を清中風をつゝ
て清成ル社を調ル法ハ此案ゟ
と不及ひとつゝ今ハ又ゟ
清用法ゟ社ル法ハ行事ゟ清
忠の方とゟ
心ゟ
家ゟ雑言空言傍若無人の事社
三年ゟ
しゟ部鄙の
今ハ清道とせゟ

[illegible]
[illegible]
紀州の事度々申つるとも及見聞の上
[illegible]
くみて九月廿五日[illegible]
[illegible]
[illegible]
くことは真津[illegible]

七日湯治所次第海湯治随時[illegible]
[illegible]
[illegible]
東[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

さればこそ捨かたしといふなれ
ありし人のとめける宿に
不捨院といふ板にけしなくて時雨霰いふ
なんとおりふし板を
去年今年杉の板屋にもりしなる
　月も時雨とまてあはれ清も
去年はこのころより来島少林寺つれ
妙勝寺旅宿を借ありしにはる度まて伊吹
おろし比良の嶺おろし霰ふりしき杉
の板戸をほとほとたゝきしとことひしおと
きしらきぬ遠き人も住なるへし八旬に
年経ぬ神无月下旬のあと文なかりしに
とおとつれ遠なけれと嘆く
　なきはいつ枕の夏路は幻の
ゆくゑ果てハ哀身なりし
中川叙法東國村より奥津志名湯治

旅宿へ文なとをとり寄せ
はしめ[illegible]板はめ[illegible]堀火の
おさはのとをひやとり
はめ申
暁はいなもの[illegible]のあるかはり
おもとをはかはさむる
旅宿不捨院のあるつるを
よるをもの杉の初場の板をあ
[illegible]

[illegible]ぬ時毎々参詣有之
人の歌樂法示連歌花自有之
とはいへ[illegible]ことを杉の源とす
清之の間ちらあり[illegible]一切
いとたかもさてもむ小松みな
伊勢国宮一社宮書状寄屋として先の一社
弥宜十二四郎二月十七日字治山田知音せし
各奥印

西行谷みゝ[illegible]
みゝ筆とり[illegible]
あひなかれぬるものきたれの老法
慈房院殿いとゝ[illegible]
たゝせおはしまして[illegible]
田屋と結ひ[illegible]
[illegible]
しハ奥津[illegible]湯治

山畑の麻[illegible]
[illegible]
たゝ[illegible]事[illegible]
[illegible]八十歳の冬の病
起[illegible]
[illegible]
長居寺法楽連歌發句容殿新造
[illegible]

古川次郎左衛門積茂は渡辺小寺復の息継母の
あくにくみて家長となりて天下浪人となり
彼是とをへて当国より甲州手樅の合
力は人数あまく討死今年十一月廿二日七年
忌辰五郎方へ中流にて待る
今小原兵庫頭高親養子
あたら侍あへなき事の志太の山
侍して法破ととふ月影
七とせは冬をかけしきうらむ青の

墓ある所ともあらて消ゆる
露となりの給ひけり此人あらしくの
討死不便命ハ墓のうちなることとかよ
事にひ出くはるものあはれし泰昭この
二ら年富士一見又筑波のあたりまて下向
こは六月日発府をもつて越年あとの
あくまし越来由清外にて法橋泰賢より返
しるをぬれて小田原白中に洛小原兵庫に

為親二三年 [illegible]別の [illegible] 数日ありて

明くれば

さんけうしゅうとて河内の [illegible]

[illegible] 泰昭

[illegible] 為親

東山ハ [illegible] 川最勝寺なりて雅経卿

[illegible] ハ [illegible] の [illegible]

[illegible] 河の [illegible]

此鞠のもとに [illegible]

泰貫泰昭父泰親卒四十餘年の [illegible]

[illegible] 駿河守尋下の [illegible]

[illegible] 向あるべきにはあらず

[illegible]

十二月一日 [illegible] 八十歳宗長孫うひ事の [illegible]

孫うたはいかに元日は [illegible]

いとこうたるべ苦は [illegible]

春昭こゝにあらつる火桶なれば作無くて
たいまの風のはくみもあらつるを
給らひしとて神ぬしなる

猶答

おもしろし雪ふる山はあらはれ出
れば雪といふるまことなり

中院の殿より所望とて雪道てたゝ作分
加賀の白雪の玉椿をきけ

今朝とはる雪ふる所は玉はきを
はるの雪

多日あまたふるとの雪かなとあら
所の玉章おくりたまふ

早梅の枝もあるまとなる時あるとを人あら
雪ふるやうて猶城殿へもせまるとて
梅ハ乳もとの春はる雪あるを
時雨ふる梅ハ雪ふるのまき

冬は物は一つもこゝろむかしなるなるなり白人
こゝろあるもの物はらめあるまつふ正月の童の
候毛はをたるやうなるはきあるゝと姫さま
のもとへは事ふり毎度の腹たつしき
事おもひはめたるゝと一書をしてわ白ひ
うゝとゝもくゝとそはまへあるくゝ大なへく
毛ふうちかゝとゝいはそなあるへくさ
てさゝなもやとゝとゝいひおゝせある

釈の日記

丈人はよゝなもてゝとわうよ
ゝうゝいひゝとぬゝも
あるうなゝ古かゝいつゝうあるくゝ人は
ゝうゝうゝ徐ゝとゝてゝあるゝうゝわ
事陣ゝゝ家ゝ人をあうゝ人ふゝとて
ゝをあゝふまゝてゝは人の
ゝゝもゝゝゝゝ

慈光院殿中納言兼房卿一條中将殿

草庵雨

仏あるじやうりのくるしき夜の窓
うち音ハしてこぬる雨うち
下ぶる時雨より小舟あり乙鳥
あうく深てしのゝめあり
仏殿しらぬあくぬ音も今ぞ
ぬるく世あてしの花を

水仙花一本人は文をとるのくるゝ
あちらをやゆ年も有てつ是ぞ
歳暮は文と書ものしたる
おちらは文孫の代まで歳暮の書ぶる
おちらは文もりあるとは歳暮して
あてをとけいうのしれ

内閣文庫

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan